

狭山市史 地誌編 目次

自然

第一章 狭山の地形と地質

第一節 狭山市の位置	4
第二節 狭山市の地形	4
一 関東平野西部の地形	4
二 狭山市の地形	6
1 狭山市の高さ	6
2 狭山市の河川	7
3 狭山市の段丘地形	10
第三節 狭山市の地質	14
一 関東平野西部の地質	14
1 山地の地質と入間川河床の礫	14
2 丘陵の地質	15
(一) 飯能礫層—関東平野発生期の謎をとくカギ	15
(二) 仏子層	16
(三) 豊岡礫層と多摩ローム層	17
3 台地の地質—ローム層と段丘礫層	17
二 狭山市の地質	18
1 丘陵をつくる地層	18
(一) 仏子層	18
(二) 豊岡礫層・多摩ローム層	23
2 台地をつくる地層	23
(一) 下末吉ローム層・下末吉層	24
(二) 武蔵野ローム層・武蔵野礫層	24
(三) 立川ローム層・立川礫層	25
3 低地をつくる地層	25
第四節 狭山市の地下をさぐる	27
一 関東平野西部の地下をさぐる	27
二 狭山市の地下をさぐる	34
1 水井戸ボーリング資料	34
2 市史編さん事業としてのボーリング資料	35
3 建築物建造のためのボーリング資料	36
第五節 狭山市の化石	46
一 笹井のアケボノゾウ	46
二 笹井の植物化石	46
第六節 狭山市のおいたち	47
一 関東平野西部のおいたち	47
1 関東山地形成の時代	47
2 平野のおいたち	47
二 狭山市のおいたち	48
1 ゾウの楽園—仏子層が堆積したころ	48
2 豊岡礫層・多摩ローム層が積もったころ	49
3 台地がつくられ関東ローム層が積もったころ	49

第二章 狭山市の気象

第一節 埼玉県の気候	56
第二節 狭山市の気象	58
一 平均気温	58
二 最高気温と最低気温	58
三 降水量	58

資料について

資料	61
----	----

公共建築物ボーリング位置

埼玉県狭山市笹井産アケボノゾウの骨格化石の産出について

(埼玉県立自然史博物館研究報告 第6号)

地誌

第一編 総括編

第一章 狭山市の誕生

第一節 誕生	120
第二節 市名の由来	120
第三節 成長	122

第二章 狭山市の自然

第一節 武蔵野の中の自然	124
一 景観	124
二 植物	124
三 動物	124
四 国木田独歩の『武蔵野』	125
五 『武蔵野雑記』	125
第二節 入間川の自然	127
一 概況	127
1 『新編武蔵風土記稿』の入間川	127
2 『新編埼玉県史』の入間川	128
二 入間川の洪水	128
1 武州入間川沈水のこと	128

2	応永九年（一四〇二）八月の洪水	130
3	承応三年（一六五四）の洪水	130
4	元禄三年（一六九〇）六月の洪水	131
三	笹井ダム付近での二大発見	133
1	メタセコイアの発見	133
2	アケボノ象の臼歯発見	134
第三節	南部の乏水地域	135
一	逃水	135
1	場所	136
2	現象	136
二	不老川	137
1	『新編武蔵風土記稿』駒形村の年不取川	137
2	『武蔵野歴史地理』の年不老川	138
三	末無川と入曾用水	138
四	堀兼の井	139
五	七曲りの井	142
六	水野	144
1	水野という地名	144
2	下々畑の多い村	144
3	深い井戸	145
第三章	狭山市の人文	
第一節	狭山のあけぼの	148
一	縄文時代	148
二	弥生時代	150
三	古墳時代	150
第二節	高麗人の来住	151
一	高麗郡	153
二	人物	154
1	若光王	154
2	高麗福信	154
3	高麗大山	154
4	高麗家の人々	154
	（一）高麗麗純	154
	（二）高麗三郎行持・同四郎行時	155
	（三）高麗多門房行高	155
5	町田家の先祖	155
	（一）高麗彦四郎経澄	155
	（二）高麗五郎左衛門尉	155
第三節	古街道と狭山	156
一	入間路	156
1	笹井観音堂	157
2	広瀬神社	157
3	七曲りの井	157
二	鎌倉街道	158
1	清水（志水）冠者義高の惨死	159
2	清水八幡	160
3	影隠し地藏	162
4	霞ヶ関	162
	（一）入間川北岸上広瀬説	163
	（二）多摩川南岸関戸説	163
5	新田義貞の鎌倉攻め	165
6	足利基氏の入間川駐陣	167
	（一）駐陣の背景	167
	（二）入間川御陣	168
	（1）基氏陣所	168
	（2）兵士の陣地	169
	（三）駐陣の期間	170
7	新田義興の謀殺	171
8	峯（狭山）の八幡塚	173
9	『狂言入間川』	175
第四節	柏原の鍛冶と鋳物師	183
一	柏原鍛冶発生の背景	183
二	鎗鍛冶元祖増田正金	185
三	刀鍛冶長谷川家	187
四	柏原鍛冶集団	188
五	柏原鋳物師	190
1	追跡調査とその結果	192
	（一）柏原円光寺	192
	（二）柏原白鬚神社	193
	（三）多摩郡御嶽村御嶽神社	194
	（四）秩父郡高山村杉本坊	195
	（五）飯能市竹寺（八王寺）	195
	（六）坂戸市新堀大福寺	196
	（七）飯能市南高麗浅間神社	197

	2	鑄物師のまとめ	198
第五節		狭山の修験道	201
	一	修験道とは	201
	二	修験道の本尊	202
	三	行法の特質	204
	四	二つの宗派	206
	五	笹井観音堂	207
	1	草創	207
	2	行尊の来訪	207
	3	道興准後の来訪	208
	4	笹井観音堂と高麗神社	210
	5	武州大先達滝音山白山寺観音堂触下次第	211
六		後北条氏と修験道	213
七		狭山の修験寺	214
	1	宝泉寺	215
	2	東林寺	216
	3	正伝院	216
	4	宮本院	216
	5	小山坊	216
	6	薬王寺	217
	7	正覚院	217
八		出羽三山と狭山	217
九		修験道の終末	218
第六節		狭山の庚申信仰	220
	一	庚申信仰とは	221
	二	庚申信仰の本尊	221
	1	阿弥陀如来	222
	2	聖観世音菩薩	222
	3	猿	222
	4	青面金剛	223
	5	猿田彦命	224
	6	本尊像の消失	224
	三	庚申信仰の年代	224
	1	初期	224
	2	中期	225
	3	晩期	225
	四	地区別庚申塔	226
	1	入間川地区	226
	2	入間地区	227
	3	堀兼地区	229
	4	奥富地区	232
	5	柏原地区	232
	6	水富地区	234
第七節		新田村の誕生	236
	一	狭山市南部の開発	237
	1	水野村(新田)の誕生	239
	2	堀金村(新田)の誕生	240
	3	上赤坂村の誕生	241
	4	中新田の誕生	241
	5	水野村開発反対騒動	241
		(一) 山口領三か村の反対	241
		(二) 北入曾村ほか五か村の反対	242
	6	新田村と井戸	243
		(一) 水野新田	243
		(二) 堀金新田	244
		(三) 水野新田と入曾用水	244
第八節		尾張殿御鷹場	245
	一	将軍家御鷹場	246
	二	尾張殿御鷹場	247
	三	川越藩御鷹場	249
	四	鷹狩りでの獲物	251
	五	鶴の捕獲	251
	六	御鷹場と農民	252
第九節		青石の石造物	255
	一	青石塔婆	255
	1	初発の青石塔婆	255
	2	地区別に見た青石塔婆数	256
	3	青石塔婆の本尊	257
	4	狭山は北朝年号使用地域	257
	5	青石塔婆の大きさ	258
	6	偈文	259
	7	塔婆の造立者	260
	二	青石の月待供養碑	260
	三	青石の申待供養碑	262

第一〇節	神道関係初発石造物	263
一	入間川地区	263
1	清水冠者義高石祠	263
2	思兼神社の御手洗	263
3	坐王権現碑	264
4	八幡宮石祠	264
5	大鷲大神石祠	265
二	入間地区	265
1	御嶽権現神像	265
2	八幡宮石祠	266
3	疱瘡神石祠	266
4	天神宮石祠	267
5	榎稻荷大明神石祠	267
6	八雲神社石祠	267
7	日本武尊石祠	267
8	浅間神社跡之碑	268
9	合祀記念碑	268
三	堀兼地区	269
1	荒神石祠	269
2	馬鳴菩薩碑	269
3	子ノ大権現	269
四	奥富地区	270
1	石鳥居	270
2	神明宮石祠	271
3	愛宕神社	271
4	猿田彦命石祠	271
5	九頭竜大権現碑	271
6	金山大権現石祠	272
7	戸隠神社石祠	272
五	柏原地区	272
1	白山権現碑	272
2	蚕生大権現石祠	273
3	同行碑	273
4	石尊大権現灯籠	273
5	大六天碑	274
六	水富地区	275
1	浅間宮石祠	275
2	水天宮神体	275
3	岩倉神社石祠	275
4	大祖参神霊石祠	276
5	百度石	276
第一一節	仏教関係初発石造物	277
一	入間川地区	277
1	地藏菩薩立像	277
2	六斎念仏供養塔	278
3	納経巡拝供養塔	278
4	阿闍如来立像	279
5	大乘妙典読誦塔	279
6	灯籠	280
7	念仏百万遍光明真言百万遍供養塔	280
8	薬師如来立像	280
9	結界石	281
10	妙法守護碑	281
11	七観世音菩薩像	281
12	救世観世音菩薩	282
13	不動明王石祠	282
二	入間地区	282
1	丸彫り大日如来坐像	282
2	法華石経塔	283
3	三界万霊塔	283
4	出羽三山供養塔	283
三	堀兼地区	284
1	浮き彫り釈迦如来立像	284
2	石幢六地藏菩薩	284
3	浮き彫り弁財天坐像	285
4	寒念仏供養塔	286
5	馬頭観世音菩薩	286
6	聖観世音菩薩立像	287
四	奥富地区	287
1	浮き彫り虚空蔵菩薩坐像	287
2	念仏供養塔	288
3	大般若供養塔	288
4	半鐘供養塔	289
5	草鞋施与千人供養塔	289

五	柏原地区	290
1	二十三夜塔	290
2	愛染明王石祠	290
六	水富地区	291
1	墓塔	291
2	阿弥陀如来立像	291
3	如意輪觀世音菩薩坐像	292
4	日愜聖人開山塔	292
5	参詣一千箇寺供養塔	292
6	普門品一万卷供養塔	293
第一二節	道標	294
一	道標とは	294
二	道標の分布	294
三	造立年代	297
四	道標の様式	297
五	道標に示された行き先地	299
1	距離からみた行き先地	299
	(一) 一泊圏内行き先地	299
	(二) 日帰り圏内行き先地	302
六	行き先地と入間川	305
1	入間川に阻まれた川南地区	305
2	入間川に阻まれた川北地区	307
第一三節	文学碑	309
一	入間川地区	309
1	万葉歌碑	309
2	芭蕉句碑	310
二	入間地区	311
1	竹友句碑	311
2	一嵐句碑	311
三	堀兼地区	312
1	宣明漢詩	312
四	柏原地区	313
1	由岐雄童句碑	313
五	水富地区	314
1	芭蕉句碑	314
2	勝行歌碑	315
3	耕甫句碑	315
4	鷲哇句碑	315
5	芭蕉句碑	315
6	多助歌碑	316
第一四節	指定文化財	317
一	入間川地区	318
1	八幡神社本殿（建造物・市指定）	318
2	木造阿弥陀如来立像二体（彫刻・市指定）	319
3	絹本着色釈迦涅槃図（絵画・市指定）	320
4	絹本着色釈迦八相図（絵画・市指定）	320
5	さはりの壺（工芸品・県指定）	321
6	清水八幡宮（史跡・市指定）	322
7	清水浜臣の墓（史跡・市指定）	323
8	天岑寺月待供養碑（有形民俗文化財・市指定）	324
9	八幡神社鹿子舞（無形民俗文化財・市指定）	325
10	天岑寺惣門（建造物・市指定）	326
二	入間地区	327
1	木造聖觀世音菩薩坐像（彫刻・市指定）	327
2	野々宮神社古代甕（工芸品・市指定）	328
3	木造地藏菩薩立像（彫刻・市指定）	328
4	七曲りの井（史跡・県指定）	329
	(一) 発掘の時期	329
	(二) 発掘者	331
	(三) 名称について	331
	(四) 井戸の衰廢	332
5	入曾の獅子舞（無形民俗文化財・県指定）	332
三	堀兼地区	334
1	隨身門及び二神像（建造物・市指定）	334
2	堀兼の井（旧跡・県指定）	335
3	バラモミ（天然記念物・県指定）	336
4	羽黒神社菩提樹（天然記念物・市指定）	337
四	奥富地区	338
1	桃園三傑図（絵画・市指定）	338
2	紙本着色両界曼陀羅（絵画・市指定）	339
3	梅宮神社神号額（書跡・市指定）	340
4	広福寺山門（建造物・市指定）	340
5	梅宮神社鰐口（工芸品・市指定）	341
6	生越道道標（史跡・市指定）	342

7	梅宮神社の甘酒祭り（無形民俗文化財・県指定）	343
	（一）祭り当番	343
	（二）杜氏らの選出	343
	（三）若衆	344
	（四）宿前	344
	（五）宵宮	344
	（六）頭渡し	345
五	柏原地区	345
1	仙人の図（絵画・市指定）	345
2	白鬚神社韋駄天の額（絵画・市指定）	346
3	銅造聖観世音菩薩立像（彫刻・市指定）	347
4	ねずみの図（絵画・市指定）	348
5	木造不動明王及び二童子立像（彫刻・市指定）	349
6	銅造御正体五面（工芸品・市指定）	350
7	大水作鎗（工芸品・市指定）	352
8	城山砦跡（史跡・市指定）	353
9	影隠し地蔵（史跡・市指定）	354
10	絵馬「子返しの図」（有形民俗文化財、市指定）	355
六	水富地区	356
1	篠井家文書一六通（古文書・県指定）	356
2	水争いの図（古文書・市指定）	363
3	今宿遺跡（史跡・市指定）	364
4	清水宗徳之墓（史跡・市指定）	365
5	広瀬神社大櫓（天然記念物・市指定）	368
6	笹井豊年足踊り（無形民俗文化財・市指定）	369
7	広瀬囃子（無形民俗文化財・市指定）	370
8	紙本地蔵十王図付他二幅（絵画・市指定）	371
9	木造千手観世音菩薩坐像（彫刻・市指定）	371
10	木造宝冠釈迦如来坐像（彫刻・市指定）	372
11	広瀬神社神輿（工芸品・市指定）	373
第一五節	市内の地名	375
一	市名	375
1	関東の狭山	375
2	大阪の狭山	375
二	地区名と大字名	376
1	入間川地区	376
	（一）地区名	376
	（二）大字名	378
	（1）入間川一丁目～四丁目	378
	（2）富士見一丁目～二丁目	378
	（3）鶉ノ木	378
	（4）狭山	379
	（5）沢	379
2	入間地区	379
	（一）地区名	379
	（二）大字名	380
	（1）北入曾	380
	（2）南入曾	380
	（3）水野	380
3	堀兼地区	382
	（一）地区名	382
	（二）大字名	382
	（1）堀兼	382
	（2）上赤坂	382
	（3）中新田	382
	（4）青柳	383
	（5）加佐志	383
	（6）東三ッ木	384
4	奥富地区	384
	（一）地区名	384
	（二）大字名	385
	（1）上奥富・下奥富	385
	（2）柏原新田	385
5	柏原地区	386
	（一）地区名	386
	（二）大字名	387
6	水富地区	387
	（一）地区名	387
	（二）大字名	387
	（1）笹井	387
	（2）根岸	388
	（3）上広瀬・下広瀬	389
三	小字名	389
1	自然的地名	390

(一) 原のつく地名	390
(二) 野のつく地名	391
(三) 台のつく地名	393
(四) 山のつく地名	393
(五) 丘(岡)のつく地名	394
(六) 田のつく地名	395
(七) 川のつく地名	395
(八) 沢のつく地名	396
(九) 窪(久保)のつく地名	397
(一〇) 植物地名	398
(一一) 動物地名	399
2 歴史的地名	400
(一) 井のつく地名	400
(二) 住居地名	401
(三) 社寺地名	402
第二編 地区編	
第一章 入間川地区	
第一節 入間川	410
一 沿革	410
二 入間河原と清水(志水)冠者義高	411
1 義高の最期	411
2 清水八幡	413
三 新田義貞の鎌倉攻め	414
四 足利基氏の入間川駐陣	416
1 駐陣の場所	416
2 入間川陣の規模	418
3 新田義興を矢口の渡しで謀殺	419
4 駐陣の期間	420
5 基氏の駐陣と入間川	422
(一) 神社崇敬	422
(二) 狂言入間川	423
五 入間川の六斎市と青物市	425
1 往古の入間川	425
2 六斎市の開設	426
3 市神様	427
六 入間川駅の開設と馬車鉄道の誕生	428
1 入間川駅の開設	429
2 馬車鉄道の誕生	430
(一) 入間馬車鉄道	430
(二) 中武馬車鉄道	431
七 狭山市誕生と入間川	432
八 豪商綿貫家	434
1 綿貫家一六代	434
2 綿貫家の信仰	436
3 近所づき合い	437
4 綿貫家の受難	438
九 神社	441
1 稻荷神社	441
2 諏訪神社	441
3 清水八幡宮	442
4 子ノ神社	442
5 八幡神社	443
6 天満天神社	446
7 水神社(石碑)	446
8 白山神社	447
9 三柱神社	447
10 愛宕神社	448
一〇 寺堂	448
1 慈眼寺(曹洞宗)	448
2 徳林寺(曹洞宗)	452
3 福徳院不動尊	454
4 経王教会(日蓮宗)	456
5 成円寺(廃寺)	456
第二節 鵜ノ木	457
一 沿革	457
二 社寺	458
1 愛宕神社	458
2 第六天神社	458
3 長栄寺(真言宗智山派)	459
第三節 峯・田中(現狭山)	461
一 沿革	461
二 社寺	462
1 峯の稻荷神社	462
2 峯の愛宕神社	462

3	田中の稲荷神社	463
4	峯の東西寺（廃寺）	463
5	峯の大日堂（廃堂）	464
6	峯の薬師堂	464
7	峯の岩船地藏堂	465
8	田中の安穩寺（廃寺）	465
9	田中の阿弥陀堂（廃堂）	465
第四節	沢	466
一	沿革	466
二	社寺	467
1	八坂神社	467
2	琴平神社	467
3	天岑寺（曹洞宗）	467
第五節	学校及び公共施設	471
一	学校	471
1	幼稚園	471
2	小学校	471
3	中学校	471
4	高等学校	472
5	各種学校	472
6	大学	472
二	公共施設	472
第二章	入間地区	
第一節	沿革	474
一	入曽の誕生	474
1	七曲りの井	474
2	七曲りの井の復元工事	475
3	入間村の歌	477
二	風土色	478
第二節	北入曽	481
一	沿革	481
二	社寺	482
1	野々宮神社	482
2	常泉寺（真言宗智山派）	484
3	観音堂（常泉寺持ち）	485
三	顕彰碑	485
1	竹友田口君碑	485
第三節	南入曽	487
一	沿革	487
二	社寺	489
1	入間野神社	489
2	入間招魂社	491
3	金剛院（真言宗豊山派）	492
第四節	水野	497
一	誕生	497
二	村の明細	498
三	地割り	500
四	川越藩農兵隊設置反対騒動	501
1	農兵隊設置命令と村々の動き	501
2	行動に出た農民	503
3	農兵隊設置の中止	504
4	農兵隊設置反対の理由	504
五	社寺	505
1	浅間神社（廃社）	505
2	八幡宮（石祠）	505
第五節	学校及び公共施設	506
一	学校	506
1	幼稚園	506
2	小学校	506
3	中学校	507
二	公共施設	507
第三章	堀兼地区	
第一節	沿革	510
一	地区の概要	510
二	堀兼の井	511
三	鎌倉街道川越道と三ッ木原古戦場	512
四	尾張殿鷹場となった堀兼と上赤坂	514
第二節	堀兼	517
一	沿革	517
二	社寺	519
1	堀兼神社	519
2	堀上不動堂	522
3	光英寺（真言宗豊山派）	523
三	権現橋と石仏群	524



1	子ノ大権現	525
2	地藏菩薩立像	525
3	馬頭觀世音菩薩立像	526
4	月待供養塔	526
第三節	中新田	527
一	沿革	527
二	社寺	528
1	愛宕神社	528
2	大日堂（廃堂）	528
第四節	上赤坂	529
一	沿革	529
二	神社	530
1	神明社（廃社）	530
第五節	加佐志	530
一	沿革	530
二	社寺	531
1	羽黒神社	531
2	峯林寺（廃寺）	533
3	観音堂（廃堂）	533
第六節	東三ッ木	534
一	沿革	534
二	社寺	534
1	愛宕神社	534
2	神明社（廃社）	535
3	薬師堂（天岑寺持ち）	535
4	観音堂（三ッ木家持ち）	537
第七節	青柳	538
一	沿革	538
二	社寺	539
1	氷川神社	539
2	浅間神社	540
3	丸山稻荷神社	540
4	积迦堂	541
5	来光寺（廃寺）	543
三	久保川と弁財天	543
第八節	学校及び公共施設	544
一	学校	544
1	幼稚園	544
2	小学校	544
3	中学校	544
4	高等学校	545
二	公共施設	545
第四章	奥富地区	
第一節	沿革	548
一	地区の概要	548
二	奥富の誕生	548
第二節	上奥富	551
一	沿革	551
二	社寺	553
1	金山神社（石祠）	553
2	梅宮神社	553
3	瑞光寺（真言宗智山派）	555
4	梅宮寺（廃寺）	557
第三節	下奥富	558
一	沿革	558
二	洪水被害	558
三	柏原村との境界争い	561
四	神社	562
1	亀井神社	562
2	八雲神社	564
3	富森稻荷神社	564
4	前田の稻荷神社	564
5	塩竈神社	565
6	浅間神社	565
7	奥富神社	566
8	前田の琴平神社（廃社）	566
五	寺堂	566
1	広福寺（天台宗）	566
2	西方の薬師堂	570
3	小袋の薬師堂（廃堂）	570
4	吹上の観音堂（廃堂）	571
5	大芦の大樹寺（廃寺）	571
6	前田の観音寺（廃寺）	572
7	常円寺（廃寺）	573

8	東林寺（廃寺）	573
第四節	柏原新田	574
一	沿革	574
二	筏の川下げと柏原新田	574
第五節	学校及び公共施設	575
一	学校	575
1	幼稚園	575
2	小学校	575
3	高等学校	575
二	公共施設	576
第五章	柏原地区	
第一節	沿革	578
一	地区の概要	578
二	鎗の生産地と柏原	580
1	鎗鍛冶増田正金	580
2	柏原鎗鍛冶集団	581
3	柏原鍛冶と砂鉄	583
三	柏原と神田鑄物師	585
1	市内に残る作品	585
2	市外に残る作品	587
3	まとめ	588
四	捉飼場であった柏原村	589
五	寛保二年の大洪水	592
第二節	上宿	594
一	沿革	594
二	神社	595
1	浅間神社（白鬚神社境内へ）	595
2	浅間神社	596
3	金山神社（増田家持ち）	596
三	寺堂	597
1	長源寺（曹洞宗）	597
2	常楽寺（天台宗）	597
3	正伝院（廃寺）	600
第三節	下宿	601
一	沿革	601
二	神社	601
1	白鬚神社	601
2	柏原神社	604
3	剣明神社（長谷川家持ち）	604
4	白山神社	605
5	水天宮（石碑）	606
6	大六天（石碑）	606
7	天満宮	606
8	稲荷神社	607
9	金毘羅宮	607
三	寺堂	607
1	永代寺（真言宗智山派）	607
2	西浄寺（真言宗靈雲派）	609
3	円光寺（真言宗智山派）	613
4	小山坊（廃寺）	614
5	宮本院（廃寺）	615
6	福乗寺（廃寺）	615
第四節	学校及び公共施設	616
一	学校	616
1	幼稚園	616
2	小学校	616
3	中学校	616
二	公共施設	617
第六章	水富地区	
第一節	沿革	620
一	地区の概要	620
二	広瀬神社と笹井観音堂	621
第二節	笹井	624
一	沿革	624
二	明治二年の村況	624
三	笹井の橋	626
四	八木と金井	627
五	道興准後の観音堂訪問	628
六	頼みにされた修験の武力	629
七	古跡	630
1	旧観音堂	630
2	旧薬王寺	633
八	神社	634
1	白鬚神社	634

2	浅間神社	635
3	稲荷神社（古谷家持ち）	636
4	白山神社（細田家持ち）	636
5	山王社	637
6	岩倉神社（古谷家持ち）	637
7	水天宮	637
8	弁才天水神宮	638
9	木曾御嶽山関東本社入間川御嶽神社	638
九	寺堂	638
1	宗源寺（曹洞宗）	638
2	滝不動堂	640
第三節	根岸	641
一	沿革	641
二	江戸末期の村況	644
三	和宮御下向と根岸村	645
四	社寺	647
1	白鬚神社	647
2	水富神社	648
3	金山神社	649
4	明光寺（真言宗智山派）	649
第四節	上・下広瀬	653
一	沿革	653
二	影隠し地蔵と霞ヶ関跡	654
三	二つの民俗行事	655
1	信立寺のお命講	655
2	浅間神社の火祭り	656
四	明治二十年の村況	658
五	鶉ノ木村と入間川村との境界争い	660
六	田島屋堰	663
七	神社	665
1	広瀬神社	665
2	富士浅間神社	669
3	愛宕神社	670
4	水天宮	670
5	松森稲荷神社	670
6	厳島神社（木村家持ち）	671
八	寺堂	671
1	信立寺（日蓮宗）	671
2	禅竜寺（曹洞宗）	674
3	観音堂（三仏堂）	676
4	堀口薬師堂	676
5	正覚院（廃寺）	677
6	宝蔵寺（廃寺）	677
7	西光寺（廃寺）	677
第五節	学校及び公共施設	678
一	学校	678
1	幼稚園	678
2	小学校	678
3	中学校	678
4	高等学校	678
5	養護学校	678
6	大学	678
二	公共施設	679
第七章	新狭山地区	
第一節	地区の概要	682
一	川越・狭山工業団地の造成	682
二	新狭山地区の誕生	682
三	新狭山地区の特色	683
第二節	新狭山地区の公共施設	684
第八章	狭山台地区	
第一節	地区の概要	686
一	狭山台団地の造成	686
二	狭山台地区の特色	687
1	立地	687
2	道路と街路樹	687
3	公園	688
4	建物（住宅）の配置	688
5	生活環境	689
第二節	学校及び公共施設	689
一	学校	689
1	幼稚園	689
2	小学校	689
3	中学校	689
二	公共施設	690

資料提供者名簿  
狭山市史編さん関係者名簿

狭山市史 地誌編 付図  
狭山市ボーリング資料位置図